

青牛式トレードマスター講座

青牛式利確戦略

～ダウ理論に基づいた最も合理的な利確ポイント～



「どこまでもホールドして利益を伸ばしたい」

最も優位性が高い価格にピンポイントで巨大なロットを仕込めた時、この欲望との戦いが始まる。

そして、この欲望に勝つ時もあれば負ける時もある。

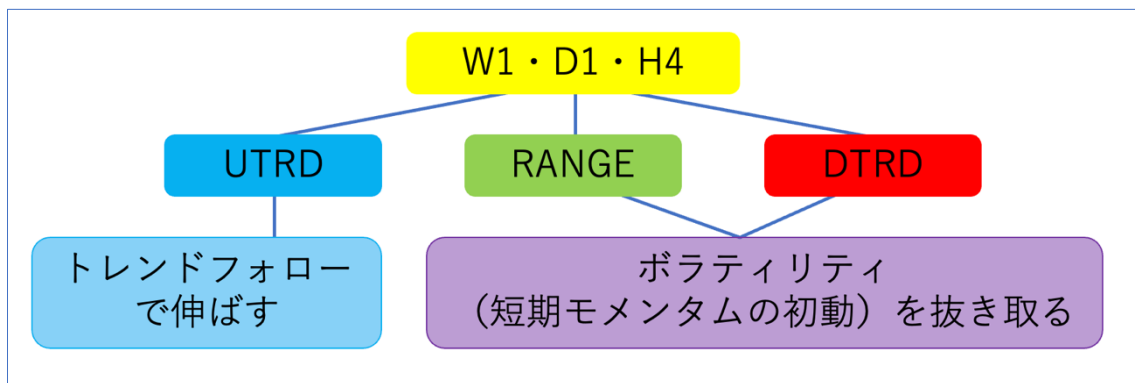
青牛式トレードマスター講座

幾度となくこの経験を積み重ねてきた中で、確実に資金を増やしていくための考え方をここに示します。

まず、ポジションを保有する時間について押さえておくべき重要な考え方があり、それは「このモメンタムは、トレンドによるものなのか、ボラティリティによるものなのかを厳密に理解する」ということ。

執行時間足によってその捉え方の尺度は変わるものの、この根底となる考え方は普遍的であり、何よりモメンタムを捉える精度を磨いていくためには絶対に押さえておくべきポイントであるため、しっかりと理解を深めていきましょう。

これをまとめたのが、次のイラストになるのですが、要は上位足にトレンドが発生していればそのトレンドに乗って強気にホールドし、上位足にネガティブな要因があれば、短期モメンタムの初動を機敏に抜き取る戦略を採用するということ。

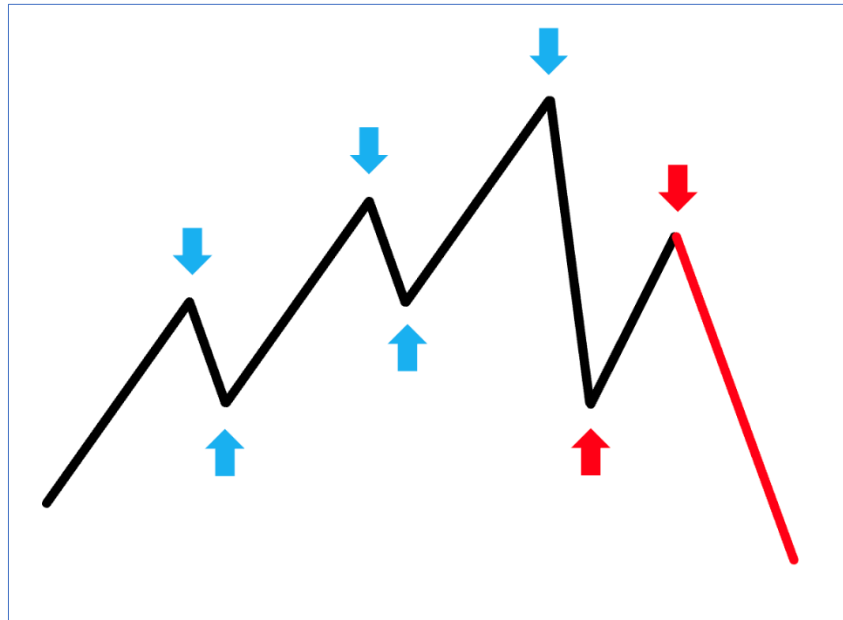


さらに、この考え方をベースに水平線やテクニカル指標を複数根拠として確実に利確していく基本的なパターンを解説していきます。

○一旦の伸び切り

サブタイトルで記載しているのがこの利確で、ダウ理論が絶対的なルールである以上、この方法が最も合理的な利確だと考えています。

ダウ理論の基本原則の中に、「トレンドは明確な転換シグナルが発生するまで継続する」というものがありますが、これを根拠に利確するのであれば、ヘッド&ショルダー等の右肩部分が明確な転換シグナルであり、最も合理的なポイントになります。

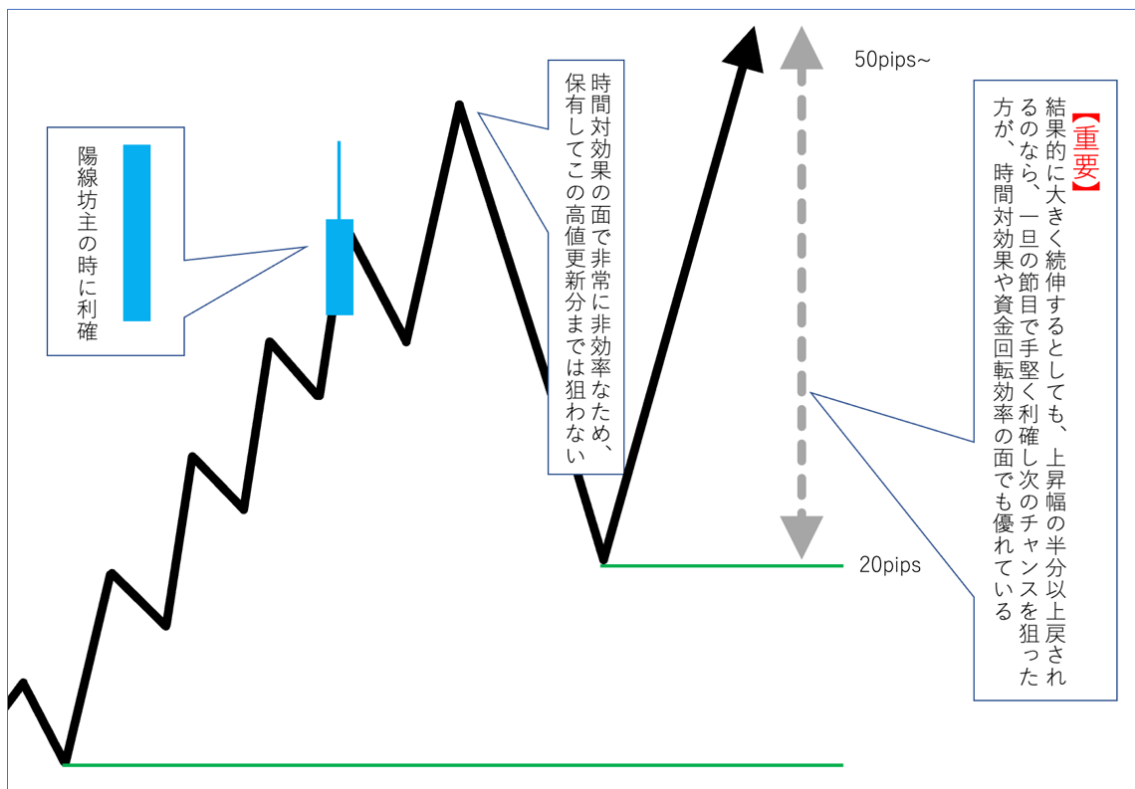


しかし、心理障壁や獲得利益等々を加味した時に、実際にこのポイントで利確しているトレーダーは少ないでしょう。

- ・トレンドとして成立するためには、高値更新の後に、その後の安値が切り上げなければならない。つまり、高値と安値が切り上げ続ける限りはホールドしなければならない。
- ・トレンドは明確な転換シグナルが発生するまで継続する。という点において、高値更新した安値を下に割り、その後の高値切り下げが確定した時点が明確な転換シグナル。

青牛式トレードマスター講座

ここからが本題ですが、これらを加味し総体的に捉えた時に、最も合理的な利確ポイントとして考えるのが、共通認識性が高い水平線等への「一旦の伸び切り」で、具体的には、**買いであれば水平線やテクニカルバリアに対して「陽線の坊主になっている状態」**



これまで講座を学んできたのであれば察しがつくかと思いますが、「エントリータイミングは陰線の坊主が最も合理的」だと私が言ってきたことを踏まえ

れば、「**利確には陽線の坊主が最も合理的**」だという理由の辻褄が合うのではないのでしょうか。

○直近高値



2 番天井、2 番底という言葉があるように、直近の重要な価格は「相場参加者が共通認識している基準」であり、つまり直近高値への 2 回目のアプローチには、一定数の売り手が確実にいるということ。

青牛式トレードマスター講座

そもそも、直近高値自体が一旦は売り優勢のため下落したわけですから、その価格では同じような下落を狙う売り圧力が発生すると考えることは自然ですよ。

なので、直近高値では確実に利確し、それ以上伸ばす場合には分割決済を活用していきましょう。

○180 & 200EMA



青牛式トレードマスター講座

この2つのEMAは、相場参加者の多くが見ているためモメンタムが発生しやすいと捉えており、自身の経験則としてもこの2つのEMAは、特に強度が高いテクニカルバリアになるという認識を持っています。

具体的にデイトレの場合、H1、M30での180&200EMAは、かなり強い利確の根拠として判断しています。

OVのサイクルクローズ

考え方としては直近高値での利確と同じですが、この場合は前回の戻り売りの起点となったポイントのため、それに応じたモメンタムが発生することを根拠に利確します。



青牛式トレードマスター講座

○ 2 時間の秩序

経験則による根拠になってしまいますが、H1、M30 のローソク足 1、2 本を抜き取るようなトレードの場合、M5 ベースでトレンドを追いかけていった時の優位性は「概ね 2 時間」であることが非常に多いという印象を持っています。



つまり、デイトレでの一つの波の発生から終わりまでの「一つの秩序の境界線が 2 時間」という認識だということ。

青牛式トレードマスター講座

解釈の余地は個々のフィルターの数だけ存在しますから、それぞれが採用する執行時間足の秩序についての見識を深めていきましょう。



値動きの行先は誰にも分からない以上、どこまで伸ばすのかということに絶対的な正解は存在しません。

とりわけデイトレであれば、時間対効果を特に意識して資金回転効率を上げていった方が確実に資金は増えていきます。

「たれば」を最も使いたくなるのが利確ですが、**何よりも大切なことはその瞬間にできる限りの想定をした中で決心した自分という存在。**

マルチタイムフレーム分析を高精度で行う最大のメリットの一つに、「目標到達地点を見極める確率を可能な限り上げることができる」ということがありますが、どんな時間軸のトレーダーであれ、利益を伸ばそうとすればマルチタイムフレーム分析による高精度な環境認識は絶対に外すことができません。

圧倒的なケーススタディの積み重ねの中で、マルチタイムフレーム分析を磨いていきましょう。

あをうし